



令和4年度「全国学力・学習状況調査」の本校の結果について

校長 柴田 真琴

1 調査結果の活用

4月19日に3年生を対象に行った「全国学力・学習状況調査」の結果をまとめました。その中で、「教科に関する調査」と「生徒質問紙」の結果から読み取れる本校生徒の傾向（全道・全国を上（下）回った主な設問・質問）等についてお知らせいたします。

なお、今回の調査結果の分析から課題を明確にし、第3学年のみならず、他の学年の教科や総合的な学習の時間、特別活動等の指導の改善に活かしていきたいと考えています。今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

2 本校の結果の全道・全国平均との差の示し方について

次のとおり、町内で統一した基準により、本校の国語・数学の平均正答率を全道・全国の平均正答率と比較して5段階で表しています。

「高い」: 5ポイント以上 ・ 「やや高い」: 3ポイント以上5ポイント未満 ・ 「同様」: ±3ポイント
「やや低い」: -3ポイント以下-5ポイント未満 ・ 「低い」: -5ポイント以下

3 「教科に関する調査」と「生徒質問紙」の結果

国語の結果

1 全14問の平均正答率の全道・全国平均との差

⇒ 本校の平均正答率は、全道・全国平均より、やや低い結果となりました。学習指導要領の内容では「知識及び技能」の3つの事項のうち『情報の扱い方に関する事項』、「思考力、判断力、表現力等」の3つの項目のうち『書くこと』が、全道・全国平均より高い結果でした。

2 全道・全国を上回った主な設問(○)と下回った主な設問(●)

- 文脈に即して漢字を正しく書く
- 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえる 等
- 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す
- 事象や行為、心情を表す語句について理解する 等

3 分析と今後の取組等

(1) 国語の授業において

- ・情報の扱い方に関する事項の設問の平均正答率が、全道・全国より高い。引き続き、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めたり、情報の信頼性の確かめ方を理解したりする取組を継続していく。
- ・「話すこと」「聞くこと」に関する設問の平均正答率は、全道・全国より低い。交流活動に積極的に取り組み、向上を目指す。

(2) 他の教科等において

- ・「書くこと」に関する設問の平均正答率が、全道・全国より高い。引き続き、作文等の活動において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことをとおして、表現力の向上に取り組んでいく。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項の設問の平均正答率が、全道・全国より低い。自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことはどの教科等においても基本となるため、全教職員で教科横断的に指導の充実を図る取組を推進していく。

数学の結果

1 全14問の平均正答率の全道・全国平均との差

⇒ 本校の平均正答率は、全道・全国平均より、低い結果となりました。学習指導要領の4つの領域のうち、データの活用のみ、全道・全国と同様の結果でした。

2 全道・全国を上回った主な設問(○)と下回った主な設問(●)

- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する 等
- 自然数を素数の積で表す
- 一次関数の変化の割合の意味を理解している
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解する 等

3 分析と今後の取組等

(1) 数学の授業において

- ・領域別では、「データの活用」に関する設問の平均正答率が、全道・全国と同様である。向上を目指し、引き続き、情報を図やグラフに整理したり、根拠を示して説明したりする活動に取り組んでいく。
- ・「数と式」「図形」「関数」に関する設問の平均正答率は、全道・全国より低いことから、基礎・基本事項の理解と定着を意識した指導の充実を図る。

(2) 他の教科等において

- ・「図形の証明」において、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する設問の平均正答率が全道・全国より低いことから、個に応じた丁寧な指導を行うとともに、全教職員で教科横断的に指導の充実を図る取組を推進していく。

理科の結果

1 全21問の平均正答率の全道・全国平均との差

⇒ 本校の平均正答率は、全道・全国平均より、やや低い結果となりました。学習指導要領の4つの領域のうち、「粒子」を柱とする領域、「生命」を柱とする領域において、全道・全国平均と同様の結果でした。

2 全道・全国を上回った主な設問(○)と下回った主な設問(●)

- 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる
- 実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる 等
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる
- 考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる 等

3 分析と今後の取組等

(1) 理科の授業において

- ・「地球」を柱とする領域において、平均正答率は、全道・全国平均より、低い結果となり、「エネルギー」を柱とする領域において、平均正答率は、全道・全国平均より、やや低い結果となった。また、「粒子」「生命」についても、平均正答率は、全道・全国平均に届いていないことから、基礎・基本事項の理解と定着を意識した指導の充実を図る。

(2) 他の教科等において

- ・違いの理由を考えたり、分析したりして説明することに、定着が不十分な面がみられるため、交流等の言語活動を全教職員で意識し、教科横断的に指導の充実を図る取組を推進していく。

生徒質問紙の結果

1 全道・全国を上回った主な質問(○)と下回った主な質問(●)

- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束はない」
全道・全国より高い
- 「月～金曜日、3時間以上ゲームをする」
全道・全国より高い
- 「人が困っているときは、進んで助けている」
全道・全国より高い
- 「家で学校からの課題で分からないことがあったときそのままにしている」
全道・全国より高い
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」
全道・全国より低い
- 「月～金曜日、1時間以上勉強する」
全道・全国より低い
- 「学校が休みの日に、2時間以上勉強する」
全道・全国より低い
- 「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」
全道・全国より低い
- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」
全道・全国より低い
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」
全道・全国より低い

2 今後の取組等

- ・全教育活動において、ご家庭と連携し生徒のよさや可能性を認め、励ます指導を継続していくとともに、学びに向かう力・人間性等の育成を図る授業改善を行っていく必要がある。